

令和3年度 あまっ子ステップ・アップ調査の結果について

1 調査目的

学校は、児童生徒の学力と学習状況を把握することで、一人一人に応じた指導の充実や学習状況の改善を図る。また、教育委員会は、教育施策の成果と課題について検証し、その改善を図ることで、教育活動に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容ごとの人数（人）

学年	学力調査					生活実態調査
	国語	算数・数学	英語	社会	理科	
小学1年生	3,119人	3,120人	/	/	/	3,131人
小学2年生	3,247人	3,253人				3,267人
小学3年生	3,262人	3,262人				3,282人
小学4年生	3,315人	3,315人				3,338人
小学5年生	3,273人	3,274人				3,296人
小学6年生	3,293人	3,290人				3,313人
中学1年生	2,930人	2,931人	2,934人	2,936人	2,937人	2,943人
中学2年生	2,850人	2,855人	2,850人	2,850人	2,856人	2,859人

3 実施日

小学校...令和3年12月8日（水） / 中学校...令和4年1月13日（木）～1月18日（火）

4 学力調査の概況

学習指導要領に示されている目標や内容に照らしたテスト形式の全国共通の問題で、基礎的・基本的な内容（約70%）、発展的な内容（約30%）の定着度を調査した。

表1と表2は、同一母集団で昨年度の結果と比較した。

【表の見方】	
学力層別人数割合	………全国の総受検者（人数非公表）を得点順に25%ずつA～D層に分け、本市においてどの層にどれだけの人数がいるかを表した割合（%）
達成率	………「目標値」を上回った児童生徒の人数割合（%）
目標値	………各教科において「おおむね満足」といえる正答率（%）。その水準まで定着できていれば、の学習内容に進むことができる目安として、設定されている。

(1) 小学校

表1 小学校における達成率と学力層別人数割合

	達成率 (%)	2021年度 学力層別人数割合 (%)					
		A層	B層	C層	D層		
一年	国語	77.2 (-)	25.9 (-)	23.3 (-)	23.7 (-)	27.1 (-)	2021
	算数	81.6 (-)	24.6 (-)	26.9 (-)	21.6 (-)	27.0 (-)	2021
二年	国語	76.4 (+5.9)	23.3 (+1.5)	24.3 (+1.2)	25.0 (-0.2)	27.4 (-2.6)	2020 2021
	算数	69.3 (+2.0)	22.7 (+3.1)	24.7 (+0.8)	27.3 (+2.9)	25.3 (-6.8)	2020 2021
三年	国語	61.9 (-12.5)	24.2 (-2.2)	23.7 (+4.3)	25.1 (-0.2)	26.9 (-2.0)	2019 2020 2021
	算数	73.9 (+3.4)	25.8 (+5.6)	24.5 (+0.9)	24.4 (-3.6)	25.4 (-2.9)	2019 2020 2021
四年	国語	71.9 (+1.8)	25.3 (+1.2)	24.9 (+0.1)	25.2 (+0.9)	24.5 (-2.3)	2019 2020 2021
	算数	74.1 (+4.2)	26.1 (+1.2)	24.4 (-0.4)	24.1 (-0.4)	25.4 (-0.4)	2019 2020 2021
五年	国語	71.2 (+3.3)	23.5 (+1.8)	24.9 (+0.6)	25.5 (+0.4)	26.1 (-2.9)	2019 2020 2021
	算数	68.3 (-0.3)	25.6 (+2.2)	26.6 (+1.9)	24.5 (-2.2)	23.2 (-2.0)	2019 2020 2021
六年	国語	64.5 (-7.8)	25.3 (+1.0)	24.2 (+0.3)	23.8 (-1.0)	26.7 (-0.3)	2019 2020 2021
	算数	64.5 (+1.8)	27.1 (+3.5)	25.7 (+1.9)	24.4 (-3.3)	22.7 (-2.3)	2019 2020 2021

※カッコ内の数値は、同一母集団（例：今年度の小4と昨年度の小3）における昨年度との差を示す。

(2) 中学校

表2 中学校における達成率と学力層別人数割合

	達成率 (%)	2021年度 学力層別人数割合 (%)					
		A層	B層	C層	D層		
一年	国語	59.8 (-13.8)	21.8 (-0.3)	25.4 (+0.9)	25.4 (-1.1)	27.4 (+0.5)	2019 2020 2021
	数学	65.3 (-5.7)	29.4 (+4.1)	25.9 (+2.2)	21.6 (-3.8)	23.2 (-2.4)	2019 2020 2021
	英語	56.8 (-)	26.3 (-)	23.8 (-)	24.8 (-)	25.1 (-)	2021
	社会	52.1 (-)	20.8 (-)	22.8 (-)	24.8 (-)	31.6 (-)	2021
	理科	59.8 (-)	23.4 (-)	24.0 (-)	24.0 (-)	28.6 (-)	2021
二年	国語	60.6 (-6.2)	24.5 (+2.1)	24.4 (0.0)	25.2 (-2.7)	26.0 (+0.8)	2019 2020 2021
	数学	58.5 (-12.4)	27.3 (-0.2)	24.5 (-1.9)	25.5 (+3.0)	22.7 (-0.8)	2019 2020 2021
	英語	61.6 (+1.6)	28.4 (-1.6)	25.8 (+1.8)	23.2 (-0.1)	22.6 (-0.1)	2020 2021
	社会	50.1 (-4.7)	20.8 (-0.2)	25.2 (+1.0)	25.9 (-0.9)	28.0 (0.0)	2020 2021
	理科	53.1 (-2.4)	25.5 (+1.3)	24.1 (+2.0)	23.7 (-0.3)	26.7 (-3.0)	2020 2021

※カッコ内の数値は、同一母集団（例：今年度の中1と昨年度の小6）における昨年度との差を示す。

5 生活実態調査の概況

アンケート形式（主に4択）で、「①学びの基礎力、②社会的実践力、③学級力、④家庭学習力」の4つのカテゴリーに基づく質問項目について調査した。

表3と表4については、同一学年集団で3年間の結果を比較した。

尚、同一学年とは、昨年度と同じ学年（例えば2019年度の小4と2020年度の小4）を指す。

表3 生活実態調査におけるカテゴリー別 平均スコア

	意識調査平均スコア											
	①学びの基礎力			②社会的実践力			③学級力			④家庭学習力		
	2019	2020	2021	2019	2020	2021	2019	2020	2021	2019	2020	2021
小1	78.8	80.9	82.2	86.1	86.6	87.4	83.8	85.9	86.8	87.8	88.9	89.4
小2	78.6	78.2	80.3	88.1	84.6	86.5	80.8	80.5	82.9	91.8	91.5	91.7
小3	70.5	72.4	71.8	70.3	72.5	74.0	76.1	80.6	78.9	76.7	78.6	77.4
小4	65.8	65.9	66.9	65.4	65.4	68.4	69.4	71.8	71.7	71.4	71.6	71.7
小5	63.2	65.4	64.4	62.0	64.3	64.2	65.3	69.3	69.3	67.4	69.0	67.4
小6	63.4	64.0	65.3	62.6	63.8	66.2	62.2	66.1	69.0	64.7	66.0	66.4
中1	59.3	60.1	60.7	56.5	57.5	59.9	57.4	59.2	63.0	59.7	60.1	60.6
中2	57.2	59.0	59.8	55.5	57.5	58.8	56.4	59.6	62.3	53.9	57.6	57.7

【表の見方】

平均スコア・・・各質問の回答を「とても：3、まあ：2、あまり：1、まったく：0」で数値化し、カテゴリー別に0～100の間になるように数値化した値。スコアが大きいほど、肯定的な回答が多かったことを表している。

生活実態調査の中から、主な質問項目について肯定的に回答した割合を、経年で比較した。

表4 主な質問項目に肯定的に回答した割合

	友だちをばかにしたりからかったりせず、一人ひとりの心や命を大切にしている学級です。			授業では、問題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる。			授業では、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。			調べたことを、パソコンを使ってまとめたり、発表したりすることができる。		
	2019	2020	2021	2019	2020	2021	2019	2020	2021	2019	2020	2021
小3	57.4	68.7	64.2	71.2	75.5	73.5	79	81.5	81.3	35	37.6	74.9
小4	58	67.5	63.8	68.6	67.3	71.5	74	76	77.3	47.4	51.6	80.6
小5	49.4	61.1	60.5	64.5	66.7	66.8	61.8	63.6	64.1	41.5	43.5	60
小6	43.5	54.6	59.1	64	66.2	68.3	62	62.7	67.2	45.4	48.2	67.2
中1	52.8	58.8	64.7	55.1	57.9	61.9	55.1	54.4	59.3	29	32.2	47.9
中2	51.4	63.1	66.8	52.8	58.4	59.7	51.2	53.6	57.7	27.6	33.7	47.1

6 結果のまとめ

(1) 学力調査

小学校（表1）

- ・同一母集団における学力層別人数割合については、小学校2年生から6年生において、昨年度よりD層の割合が減少した。
- ・小2の算数については、D層が小1の時から6.8ポイント減少し改善が見られた。
- ・小3の算数については、小2の時からC層とD層合わせて6.5ポイント減少しており、A層が5.6ポイント増加したことから、全体的に学力の底上げが図られたと考えられる。
- ・小3の国語については、小2の時と比較すると達成率が12.5ポイントと大幅に減少した。昨年度も同様の傾向であった。

中学校（表2）

- ・中1の数学については、小6の時と比較するとC層とD層の割合が減りA層とB層の割合が増加しているが、達成率は減少している。
- ・中2の数学については、達成率が12.4ポイント減少し、C層が増加するなどの課題が見られた。
- ・中2の英語については、D層の割合が22.6%と少なく、昨年度も同様の傾向であった。
- ・社会については、中1、中2ともにD層の割合が多い。これは、昨年と同様の傾向である。

(2) 意識調査

カテゴリー別平均スコア（表3）

同一学年集団における平均スコアの推移をみると、多くの学年とそれぞれのカテゴリーで肯定的な回答割合が増加している。特に、中学校については、全学年、全てのカテゴリーで肯定的な回答の割合が増加している。

各質問項目（表4）

- ◆「授業では、問題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる。」
 - ◆「授業では、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。」
- この2つの項目については、小4以上で肯定的な回答が増加している。新学習指導要領で求められている「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善が、着実に進んでいると考えられる。
- ◆「調べたことを、パソコンを使ってまとめたり、発表したりすることができる。」
- この項目については、全ての学年で肯定的な回答が大幅に増加している。GIGAスクール構想の実現により、児童生徒に1人1台のコンピュータが配付され、着実にICTを活用した授業が実践されていると考えられる。

7 分析・考察

(1) 小学校における、総受検者に対するD層の割合の減少について

次の3つの学年について、同一母集団で2018年と2021年のD層の割合を比較した。

表5 学力層別人数割合における、D層の割合の変化

4年生		2018年(1年生)	⇒	2021年(4年生)	減少値
	国語	30.8%	⇒	24.5%	-6.3
	算数	37.7%	⇒	25.4%	-12.3
5年生		2018年(2年生)	⇒	2021年(5年生)	減少値
	国語	32.2%	⇒	26.1%	-6.1
	算数	32.8%	⇒	23.2%	-9.6
6年生		2018年(3年生)	⇒	2021年(6年生)	減少値
	国語	29.4%	⇒	26.7%	-2.7
	算数	29.1%	⇒	22.7%	-6.4

上の表5のどの学年を見ても、調査開始時の2018年と比較すると、この4年間での減少を見ることができる。さらに小学校41校の中から、この4年間でD層の割合が20%前後まで改善された学校を調べると、4年生で21校、5年生で17校、6年生で9校見られた。そこで、これらの小学校とその他の小学校の意識調査の結果を比較した。

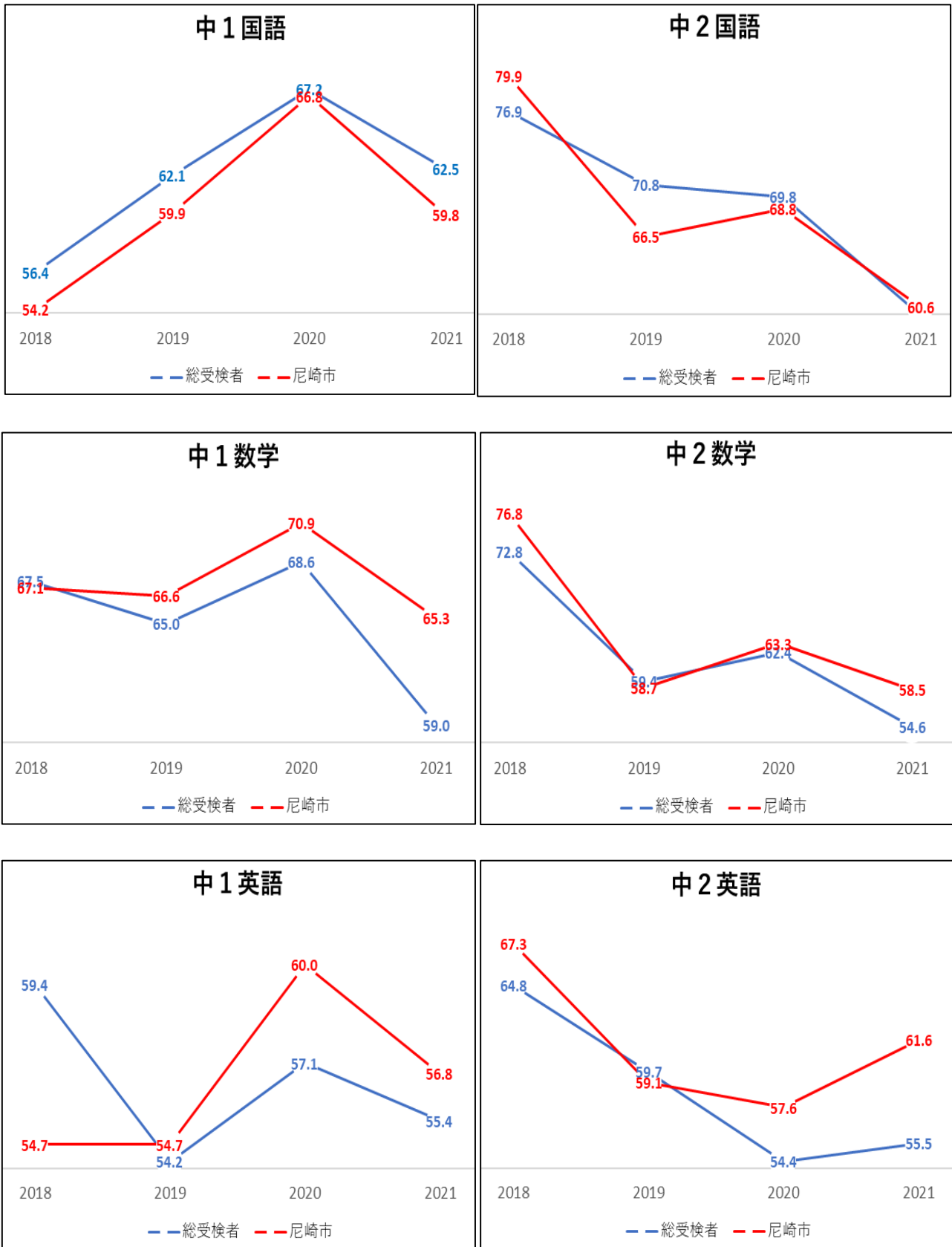
表6 主な質問項目における比較

視点	質問項目	学年	D層に20%前後の改善が見られた小学校の平均	その他の小学校の平均	市内での差	【参考】 全国総受検者
① 学びの 基礎 力	テストで間違えた問題は、 もう一度やり直している。	4年	70.2	65.9	+4.3	75.8
		5年	62.2	60.5	+1.7	71.0
		6年	66.8	61.1	+5.7	73.3
	わからないことはそのままにせず、 わかるまで努力している。	4年	67.8	65.4	+2.4	75.6
		5年	66.3	61.6	+4.7	70.6
		6年	71.2	65.6	+5.6	71.6
	授業を集中して受けている。	4年	86.8	84.1	+2.7	87.3
		5年	83.3	82.1	+1.2	84.4
		6年	86.4	80.5	+5.9	86.4
③ 学級 力	発言している人の話を最後まで しっかり聞いている学級です。	4年	80.4	76.8	+3.6	84.2
		5年	80.0	75.3	+4.7	81.3
		6年	86.2	76.8	+9.4	86.2
	授業中にむだなおしゃべりを しない学級です。	4年	50.1	44.7	+5.4	59.2
		5年	41.4	37.5	+3.9	44.1
		6年	48.9	36.0	+12.9	53.8

表6を見ると、D層の割合が大きく改善された学校では、『① 学びの基礎力』の視点において、自ら学ぶ力・学びを律する力に関する3つの質問項目で肯定的な回答の割合が高く、『③ 学級力』の視点においては、授業規律に関する2つの質問項目で肯定的な回答の割合が高かった。

(2) 中学校において、教科による結果のばらつきが見られることについて

表7 中学校における、同一学年集団での総受検者と尼崎市の各教科の達成率（％）の推移



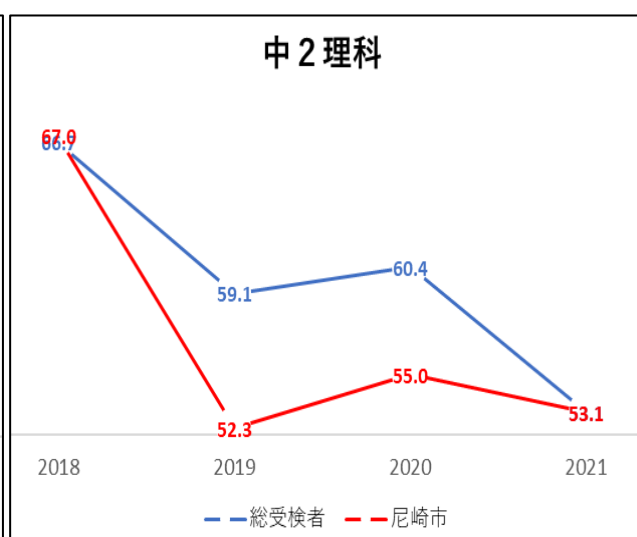
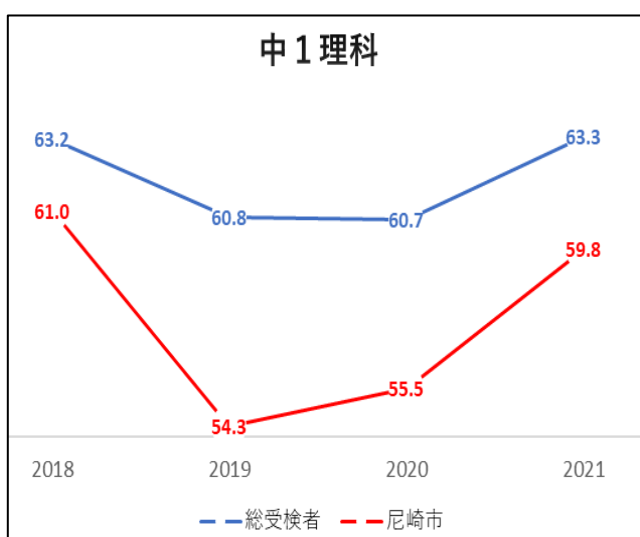
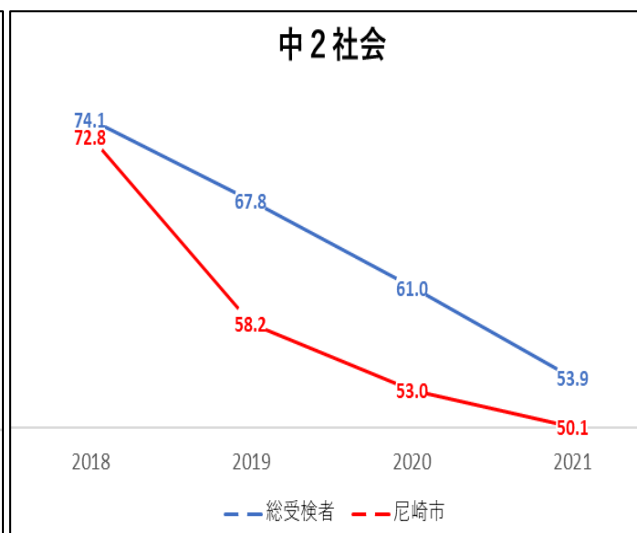
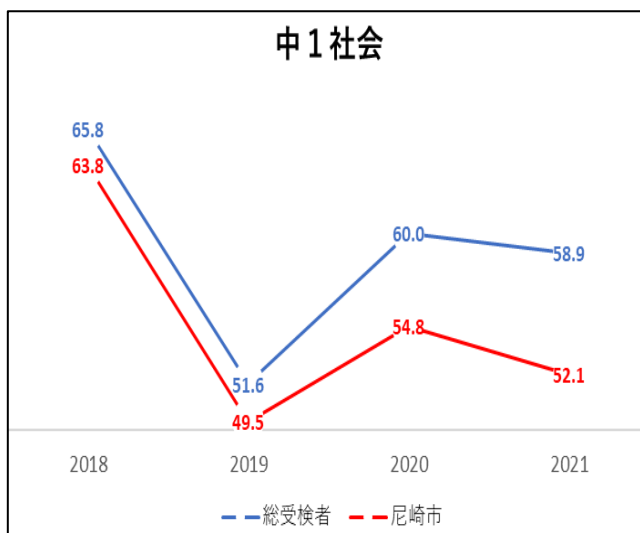


表7を見ると、国語においては、総受検者とあまり差がない達成率の差で推移している。数学においては、表2の中学2年生の数学で達成率が12.4ポイント減少し、C層が増加するなどの課題が見られたが、表7を見ると、ここ数年で2学年ともに総受検者の達成率を上回る結果となっている。英語においては、表2の中学2年生の英語において昨年度同様にD層の割合が少なかったことに加え、表7を見ると、ここ数年で2学年ともに総受検者の達成率を上回る結果となっている。その一方で、社会と理科においては、総受検者の達成率をおおむね下回っている。

そこで次では、社会・理科に着目して分析をする。意識調査における教科の学習方略に関する質問項目で、肯定的な回答をした割合を全国の総受検者と新潟市の同一学年集団で経年比較し、グラフで表した。

表8 学習方略に関する質問項目における、肯定的な回答の割合の経年比較のグラフ（社会）

社会	中1	中2																														
<p>社会の授業で、テレビや電子黒板などを使って、写真や地図・グラフなどを見ることがある。</p>	<table border="1"> <caption>Grade 1 Data</caption> <thead> <tr> <th>Year</th> <th>総受検者</th> <th>尼崎市</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2018</td> <td>65</td> <td>58</td> </tr> <tr> <td>2019</td> <td>65</td> <td>58</td> </tr> <tr> <td>2020</td> <td>75</td> <td>68</td> </tr> <tr> <td>2021</td> <td>85</td> <td>71</td> </tr> </tbody> </table>	Year	総受検者	尼崎市	2018	65	58	2019	65	58	2020	75	68	2021	85	71	<table border="1"> <caption>Grade 2 Data</caption> <thead> <tr> <th>Year</th> <th>総受検者</th> <th>尼崎市</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2018</td> <td>63</td> <td>57</td> </tr> <tr> <td>2019</td> <td>67</td> <td>62</td> </tr> <tr> <td>2020</td> <td>72</td> <td>63</td> </tr> <tr> <td>2021</td> <td>88</td> <td>84</td> </tr> </tbody> </table>	Year	総受検者	尼崎市	2018	63	57	2019	67	62	2020	72	63	2021	88	84
Year	総受検者	尼崎市																														
2018	65	58																														
2019	65	58																														
2020	75	68																														
2021	85	71																														
Year	総受検者	尼崎市																														
2018	63	57																														
2019	67	62																														
2020	72	63																														
2021	88	84																														
<p>社会の授業で、調べたことを、新聞形式でまとめたことがある。</p>	<table border="1"> <caption>Grade 1 Data</caption> <thead> <tr> <th>Year</th> <th>総受検者</th> <th>尼崎市</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2018</td> <td>43</td> <td>38</td> </tr> <tr> <td>2019</td> <td>47</td> <td>47</td> </tr> <tr> <td>2020</td> <td>38</td> <td>35</td> </tr> <tr> <td>2021</td> <td>46</td> <td>42</td> </tr> </tbody> </table>	Year	総受検者	尼崎市	2018	43	38	2019	47	47	2020	38	35	2021	46	42	<table border="1"> <caption>Grade 2 Data</caption> <thead> <tr> <th>Year</th> <th>総受検者</th> <th>尼崎市</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2018</td> <td>51</td> <td>54</td> </tr> <tr> <td>2019</td> <td>46</td> <td>43</td> </tr> <tr> <td>2020</td> <td>43</td> <td>37</td> </tr> <tr> <td>2021</td> <td>44</td> <td>49</td> </tr> </tbody> </table>	Year	総受検者	尼崎市	2018	51	54	2019	46	43	2020	43	37	2021	44	49
Year	総受検者	尼崎市																														
2018	43	38																														
2019	47	47																														
2020	38	35																														
2021	46	42																														
Year	総受検者	尼崎市																														
2018	51	54																														
2019	46	43																														
2020	43	37																														
2021	44	49																														
<p>社会の授業で、いま、世の中で起きていることについて、資料をもとにして考えることがある。</p>	<table border="1"> <caption>Grade 1 Data</caption> <thead> <tr> <th>Year</th> <th>総受検者</th> <th>尼崎市</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2018</td> <td>49</td> <td>41</td> </tr> <tr> <td>2019</td> <td>46</td> <td>41</td> </tr> <tr> <td>2020</td> <td>47</td> <td>37</td> </tr> <tr> <td>2021</td> <td>61</td> <td>51</td> </tr> </tbody> </table>	Year	総受検者	尼崎市	2018	49	41	2019	46	41	2020	47	37	2021	61	51	<table border="1"> <caption>Grade 2 Data</caption> <thead> <tr> <th>Year</th> <th>総受検者</th> <th>尼崎市</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2018</td> <td>43</td> <td>35</td> </tr> <tr> <td>2019</td> <td>45</td> <td>42</td> </tr> <tr> <td>2020</td> <td>48</td> <td>40</td> </tr> <tr> <td>2021</td> <td>58</td> <td>46</td> </tr> </tbody> </table>	Year	総受検者	尼崎市	2018	43	35	2019	45	42	2020	48	40	2021	58	46
Year	総受検者	尼崎市																														
2018	49	41																														
2019	46	41																														
2020	47	37																														
2021	61	51																														
Year	総受検者	尼崎市																														
2018	43	35																														
2019	45	42																														
2020	48	40																														
2021	58	46																														
<p>社会の授業で、グループで話し合いや教え合いをしている。</p>	<table border="1"> <caption>Grade 1 Data</caption> <thead> <tr> <th>Year</th> <th>総受検者</th> <th>尼崎市</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2018</td> <td>62</td> <td>53</td> </tr> <tr> <td>2019</td> <td>55</td> <td>52</td> </tr> <tr> <td>2020</td> <td>52</td> <td>40</td> </tr> <tr> <td>2021</td> <td>68</td> <td>58</td> </tr> </tbody> </table>	Year	総受検者	尼崎市	2018	62	53	2019	55	52	2020	52	40	2021	68	58	<table border="1"> <caption>Grade 2 Data</caption> <thead> <tr> <th>Year</th> <th>総受検者</th> <th>尼崎市</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2018</td> <td>53</td> <td>41</td> </tr> <tr> <td>2019</td> <td>54</td> <td>53</td> </tr> <tr> <td>2020</td> <td>58</td> <td>46</td> </tr> <tr> <td>2021</td> <td>65</td> <td>53</td> </tr> </tbody> </table>	Year	総受検者	尼崎市	2018	53	41	2019	54	53	2020	58	46	2021	65	53
Year	総受検者	尼崎市																														
2018	62	53																														
2019	55	52																														
2020	52	40																														
2021	68	58																														
Year	総受検者	尼崎市																														
2018	53	41																														
2019	54	53																														
2020	58	46																														
2021	65	53																														

社会に関する質問項目においては、肯定的な回答の割合が、すべての質問項目で総受検者と同じように、昨年度から上昇しているが、一部では、総受検者の回答の割合との大きな乖離が見られた。

表9 学習方略に関する質問項目における、肯定的な回答の割合の経年比較のグラフ（理科）

理科	中1	中2																														
理科の授業で、実験や調査に取り組む前に、仮説を立てたり結果を予想したりしている。	<table border="1"> <caption>中1 肯定的な回答の割合 (%)</caption> <thead> <tr> <th>年</th> <th>総受検者</th> <th>尼崎市</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2018</td> <td>75</td> <td>69</td> </tr> <tr> <td>2019</td> <td>73</td> <td>70</td> </tr> <tr> <td>2020</td> <td>74.5</td> <td>72</td> </tr> <tr> <td>2021</td> <td>83</td> <td>71.5</td> </tr> </tbody> </table>	年	総受検者	尼崎市	2018	75	69	2019	73	70	2020	74.5	72	2021	83	71.5	<table border="1"> <caption>中2 肯定的な回答の割合 (%)</caption> <thead> <tr> <th>年</th> <th>総受検者</th> <th>尼崎市</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2018</td> <td>72</td> <td>62</td> </tr> <tr> <td>2019</td> <td>70.5</td> <td>67</td> </tr> <tr> <td>2020</td> <td>75</td> <td>69</td> </tr> <tr> <td>2021</td> <td>81</td> <td>76</td> </tr> </tbody> </table>	年	総受検者	尼崎市	2018	72	62	2019	70.5	67	2020	75	69	2021	81	76
年	総受検者	尼崎市																														
2018	75	69																														
2019	73	70																														
2020	74.5	72																														
2021	83	71.5																														
年	総受検者	尼崎市																														
2018	72	62																														
2019	70.5	67																														
2020	75	69																														
2021	81	76																														
理科の授業で、テレビや電子黒板などを使って、実験や観察のようすや自然のいろいろなようすなどについて、写真や映像などを見ることがある。	<table border="1"> <caption>中1 肯定的な回答の割合 (%)</caption> <thead> <tr> <th>年</th> <th>総受検者</th> <th>尼崎市</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2018</td> <td>64</td> <td>56</td> </tr> <tr> <td>2019</td> <td>62</td> <td>57</td> </tr> <tr> <td>2020</td> <td>73</td> <td>68</td> </tr> <tr> <td>2021</td> <td>88</td> <td>75</td> </tr> </tbody> </table>	年	総受検者	尼崎市	2018	64	56	2019	62	57	2020	73	68	2021	88	75	<table border="1"> <caption>中2 肯定的な回答の割合 (%)</caption> <thead> <tr> <th>年</th> <th>総受検者</th> <th>尼崎市</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2018</td> <td>66</td> <td>56</td> </tr> <tr> <td>2019</td> <td>60.5</td> <td>52</td> </tr> <tr> <td>2020</td> <td>71</td> <td>59</td> </tr> <tr> <td>2021</td> <td>87</td> <td>81</td> </tr> </tbody> </table>	年	総受検者	尼崎市	2018	66	56	2019	60.5	52	2020	71	59	2021	87	81
年	総受検者	尼崎市																														
2018	64	56																														
2019	62	57																														
2020	73	68																														
2021	88	75																														
年	総受検者	尼崎市																														
2018	66	56																														
2019	60.5	52																														
2020	71	59																														
2021	87	81																														
理科の授業で、実験や調査が終わったあとに、気づいたことや新しい疑問などについて、話し合ったりまとめたりしている。	<table border="1"> <caption>中1 肯定的な回答の割合 (%)</caption> <thead> <tr> <th>年</th> <th>総受検者</th> <th>尼崎市</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2018</td> <td>63</td> <td>53</td> </tr> <tr> <td>2019</td> <td>62.5</td> <td>60</td> </tr> <tr> <td>2020</td> <td>64</td> <td>60</td> </tr> <tr> <td>2021</td> <td>75.5</td> <td>58.5</td> </tr> </tbody> </table>	年	総受検者	尼崎市	2018	63	53	2019	62.5	60	2020	64	60	2021	75.5	58.5	<table border="1"> <caption>中2 肯定的な回答の割合 (%)</caption> <thead> <tr> <th>年</th> <th>総受検者</th> <th>尼崎市</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2018</td> <td>64.5</td> <td>53.5</td> </tr> <tr> <td>2019</td> <td>63</td> <td>58</td> </tr> <tr> <td>2020</td> <td>67.5</td> <td>59</td> </tr> <tr> <td>2021</td> <td>70.5</td> <td>61.5</td> </tr> </tbody> </table>	年	総受検者	尼崎市	2018	64.5	53.5	2019	63	58	2020	67.5	59	2021	70.5	61.5
年	総受検者	尼崎市																														
2018	63	53																														
2019	62.5	60																														
2020	64	60																														
2021	75.5	58.5																														
年	総受検者	尼崎市																														
2018	64.5	53.5																														
2019	63	58																														
2020	67.5	59																														
2021	70.5	61.5																														
理科の授業で、グループで話し合いや教え合いをしている。	<table border="1"> <caption>中1 肯定的な回答の割合 (%)</caption> <thead> <tr> <th>年</th> <th>総受検者</th> <th>尼崎市</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2018</td> <td>71</td> <td>62</td> </tr> <tr> <td>2019</td> <td>68</td> <td>65.5</td> </tr> <tr> <td>2020</td> <td>65</td> <td>59</td> </tr> <tr> <td>2021</td> <td>83</td> <td>63.5</td> </tr> </tbody> </table>	年	総受検者	尼崎市	2018	71	62	2019	68	65.5	2020	65	59	2021	83	63.5	<table border="1"> <caption>中2 肯定的な回答の割合 (%)</caption> <thead> <tr> <th>年</th> <th>総受検者</th> <th>尼崎市</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2018</td> <td>66</td> <td>52.5</td> </tr> <tr> <td>2019</td> <td>67</td> <td>62.5</td> </tr> <tr> <td>2020</td> <td>70</td> <td>62.5</td> </tr> <tr> <td>2021</td> <td>74.5</td> <td>60.5</td> </tr> </tbody> </table>	年	総受検者	尼崎市	2018	66	52.5	2019	67	62.5	2020	70	62.5	2021	74.5	60.5
年	総受検者	尼崎市																														
2018	71	62																														
2019	68	65.5																														
2020	65	59																														
2021	83	63.5																														
年	総受検者	尼崎市																														
2018	66	52.5																														
2019	67	62.5																														
2020	70	62.5																														
2021	74.5	60.5																														

理科に関する質問項目においては、肯定的な回答の割合が、昨年度から上昇している項目もあるが、下降している項目もあり、一部では総受検者の回答の割合と大きな乖離が見られた。

8 まとめ

・小学校

D層の割合が20%前後改善された小学校では、意識調査の『①学びの基礎力』の視点における、自ら学ぶ力・学びを律する力に関する一部の項目で、肯定的な回答の割合が高かった。特に、「テストで間違えた問題は、もう一度やり直している。」や「わからないことはそのままにせず、わかるまで努力している。」という質問に対する肯定的な回答の割合が高かったことは、2019年4月より尼崎市全体で統一的に実施した「帯学習」・「放課後学習」の取り組みが、これらの学校で効果的に実施されたのではないかと考える。授業だけでなく、この「帯学習」や「放課後学習」により、基礎学力向上のための内容を取り組むことによって、児童一人ひとりに応じたきめ細かな指導ができ、D層の割合の減少につながっているのではないかと推測する。今後は、各小学校の児童の実態に合わせ、「帯学習」・「放課後学習」の内容を、より一層充実させていく必要がある。また、意識調査の『③学級力』の視点における、授業規律に関する一部の項目においても、肯定的な回答の割合が高かったことから、学力向上の基盤として、児童が落ち着いて学べる環境作りの重要性が窺える。

・中学校

社会と理科に関する意識調査においては、学習方略に関する項目で、肯定的な回答の上昇が複数の項目で見られ、「主体的・対話的で深い学び」の視点をふまえた授業改善が、着実に進んでいるものと思われる。また、社会と理科における尼崎市の達成率と総受検者の達成率との差は概ね縮まってきている。しかしながら、総受検者の達成率を上回るまでには至っておらず、学力層別人数割合においても、社会と理科のD層の割合は昨年度と同様に比較的高い結果であった。

これらのことから、今後も授業改善を進めていく中で、一昨年度作成した「授業デザイン・3つの視点」にある「ふりかえり」の視点をより一層ふまえるとともに、今年度より導入している「スタディサプリ」の活用等も含め、授業の内容を確実に定着させていくことが大切である。また、授業改善については、国語・数学・英語も含め、市内各教科研究会等に働きかけ、教科ごとの結果やその分析をふまえた改善を図っていくことも必要である。

・小学校、中学校に共通して

今後、指導主事による「授業改善・学力保証推進チーム」が学校を訪問した際には、以上のことをふまえ、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善状況や、基礎学力向上に向けた「帯学習」や「放課後学習」等の取り組み状況を把握し、必要に応じた指導助言や情報提供を行っていく。また、全ての小中学校から選任された教員で構成する研究部会においても、分析結果を効果的に活用している学校の取り組み等を、市内で共有するなどして横展開を図っていく。